

2024

令和6年6月28日

第16号

(通算121号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!

2026年 県立短大は「大学校」に変わります。



1 DX時代の担い手は君達だ



於：水戸第三高 スタートアップ講演

6月11日(火)、県立水戸第三高校において、いばらきP-TECHによる「スタートアップ講演会」が実施され、DX時代を担う高校生に三人の講師から熱いメッセージが送られました。

講演会で、はじめに県教育庁高校教育課の近藤正伸指導主事から、いばらきP-TECHのねらいや、これからのデジタル社会におけるITスキルの重要性について説明がありました。続いて、県政策企画部の谷口英宣情報化統括監からは、巨大IT企業が世界経済をリードしているように、DX時代を担う日本のIT技術者の育成が急務であると、高校生への期待を話されていました。最後に常陽銀行の松下幸彦さんから「Joyo High School テックコンテスト」が紹介されました。

この後、高校生がグループになり、これからの高校での学び方や、デジタル化社会に関する疑問が協議されました。

高校生からは「ITに関する知識をもっとつけて、将来に役立てたい」「AIと上手に関わり、情報の真偽を吟味していきたい」「高校でITを意欲的に学び、IT関連の企業に就職したい」などと笑顔で感想を述べていました。



発表する高校生



アドバイスを講師

2 三高プライドで未来拓け

県立水戸第三高校の南雲康司校長は、「三高プライド」を持ち、今回のスタートアップ講演会の学びを活かし、未来社会を切り拓く人財を目指して欲しいと話されていました。



講師と生徒に囲まれた南雲康司校長(右から2人目)

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事> 読売新聞(2024年5月14日)

水鏡の青空 車両走る

～鹿島臨海鉄道 大洗鹿島線～

●木元心結さん(多賀高卒)

◇要約：鹿島臨海鉄道 大洗鹿島線は30年以上前に開業し、現在も走り続けている。昔懐かしい車内や、地域に伝わる鹿島七不思議、なます料理など魅力が沢山ある。この列車は誰かの青春を運び続けている。

◇感想：普段、お世話になっている鉄道について何も考えたことがなかったが、この記事を読んでいろいろな魅力があることを知りました。すずめの戸締りと同じ要石があると知って見に行きたいと思った。地域の魅力について調べてみようと思う。

●田中晴久さん(太田西山高卒)

◇感想：大洗鹿島線には様々な人が乗っていて、移動に大変便利だと思う。

エアコンではなく扇風機なので時代を感じる事が出来る。なます料理も伝説に因んだものだが美味しそう。茨城のことが良く伝わってくる記事だと思う。

●高木皓貴さん(水戸啓明高卒)

◇感想：いつも使っている鉄道だから気にも留めていなかったけれど、改めて常澄駅周辺の田んぼの景色を見渡すと、田んぼの水に反射する太陽の光がとても綺麗だった。

こうした景色を失わないよう環境を綺麗にしなければいけないと思った。

●飛田美優さん(勝田工高卒)

◇感想：私自身、通学のため何度か乗車したことがあるが、のどかで心の落ち着く雰囲気は大洗鹿島線ならではのと思う。

近頃はローカル線が廃線となるケースが多い。茨城の大切な文化として、これからも走り続けて欲しい。

●松倉洋輝さん(緑岡高卒)

◇感想：普段は自転車通学なので、毎日乗ることはない。乗るのは雨の日だけなので、毎回天気が悪く景色を見ることはなかった。この記事を読んだので、晴れの日に乗って車窓からの景色をじっくり楽しみたいと思った。



本校から見る常澄駅

